



2月のほけんだより 境南第2保育園

1月は市内の保育園や小学校でインフルエンザが流行し、多くの子ども達が罹患した情報が続きました。全国的にも大流行しており、都内では「流行警報」が発出されました(1月26日)。今シーズンは例年よりもB型の流行が早く、また初期症状が軽く、風邪と見分けづらい場合もあるそうです。引き続き、お子さんの様子を気に掛けて頂けたらと思います。

寒い季節に増加傾向 やけどに注意!

冬は暖房器具を使ったり、温かい食べ物や飲み物が食卓に出る機会も増えるため、特にやけどの注意が必要になります。

＜やけどの原因＞ 「味噌汁・スープ」のやけどが最も多く、続いて「熱湯」、「お茶・コーヒー類」、となっており、「熱い液体」でのやけどが多い状況です(平成28年度:東京都消防庁管内)。

＜救急搬送された年齢＞ 0歳(140人)・1歳(202人)が多く、0歳では7か月頃から事故が増えます。

＜やけどを防ぐために＞

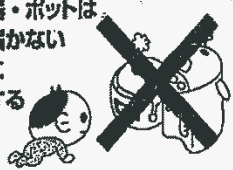
テーブルに熱いものを置くときは、こどもの手の届かないように



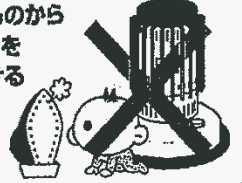
テーブルクロスを使用しない



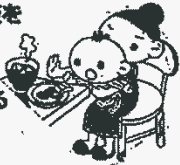
炊飯器・ポットは、手の届かない高さに配置する



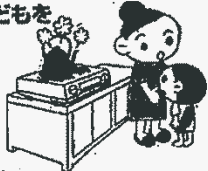
熱いものからこどもを遠ざける



抱っこでご飯を食べさせる場合は十分注意する



小さいこどもを台所に入れない



その他、「子どもを抱いたまま調理をしない」、「子どもが電気コードを引っ掛けないようにする」、子どもにも「熱いから触らない」等の声掛けをして注意を促しましょう。

＜やけどの処置＞

- すぐに水道水で洗面器等を用いて、受傷部に水道水が直接当たらないように冷やします(10分～できれば30分位)。*衣服の上からのやけどは、脱がさずにそのまま冷やします。
- 冷やした後、清潔な布で受傷部をフワッと包み、包帯をゆるめに巻きます。
- 大きなやけど(その子の手の平より大きい範囲)、顔や陰部のやけど、水泡がある場合(細菌に感染しやすい状況)、低温やけど(意外と深いやけどになっていることがある)、衣服が受傷部にくっついてはがれない場合は、受診しましょう。
- 体表面積10%以上(腕や足1本程の面積)の広範囲なやけどや、皮膚が青白くなり痛みを感じないような時は、救急車で受診しましょう。



予防接種の確認をしましょう

予防接種で防げる病気(VPD)からお子さんを守るために、また保育園はたくさんのお子さんが生活する所ですので、かかりつけ医と相談しながら、体調のよい時に早めに受けていきましょう。

*接種しましたら、予防接種届け(保健室出入口傍にあります)に記入し、ご提出下さい。

*保育時間面談の際(2月16日・20日)、母子手帳を参考に、接種記録の確認をします(以下の予防接種で受けていないものはありますか?)。

＜定期接種＞

- ・ヒブ: 生後2か月～3回接種し(4～8週間隔)、3回目から7か月以上あけて、1歳すぐに4回目を接種。
- ・肺炎球菌: 生後2か月～3回接種し(4週間隔)、3回目から60日以上あけて、4回目を接種(生後12～15か月頃)。
- ・四種混合: 生後3か月～3回接種し(3～8週間隔)、3回目の約1年後(6か月後～接種可能)4回目を接種。
- ・MR(麻疹・風疹): I期は1歳になったら早めに接種を。II期は就学前年3月31日までに接種。
- ・水痘(水ぼうそう): 1回目(1歳以降)の接種後、約3か月たったら2回目の接種を。
- ・日本脳炎: I期(2回)の標準接種時期は3～4歳。追加接種(1回)はI期終了の約1年後に。

＜任意接種＞

- ・おたふくかぜ(流行性耳下腺炎): 1回目(1歳以降)の接種後、2～6年たったら2回目の接種を。

2月保健日程(予定)

- 0歳内科: 19日(月)
- 全体内科: 26日(月)

*2月中にもり組(3歳)の視力測定を行なう予定です。

